

「生産と労働」

本単元で育成する資質・能力

高い志

先を見通す力

知識

他者理解

単元について

本単元は、中学校学習指導要領（平成20年）社会科公民的分野の「(2) 私たちと経済」の内容のうち、「ア 市場の働きと経済」に基づいて設定した。その内容に、「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、社会における企業の役割と責任について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神と関連付けて考えさせる。」とあるように、労働の意義とともに労働者の権利と関連させながら、より良い働き方について考えさせたい。近年、大きな課題となっている「過労死」などの諸課題や政府が進めている「働き方改革」とも関連させながら、労働者の雇用や労働条件をめぐる課題をどう解決していくのか、資料を使ってそこから課題を読み取りながら考えさせていきたい。将来社会で働く生徒にとっては、自分の生き方に関わる重要な単元である。

生徒の実態

平成28年度の熊野町学力調査の社会科（地理・歴史）の問題において、熊野町が設定した目標値を基準にすると、地理・歴史ともに知識・理解を問う問題については、概ね目標値を上回っており定着していると考えられる。それに対して、目標値を下回っている問題の正答率をみると、「世界の人口分布図」の読み取りが8.1%、「水田割合」について地図をもとにして判断する問題が41.7%、江戸時代の「商品作物栽培や貨幣経済の進展の農村への影響」について考える問題が12.9%となっており、かなり低い。

このことから、資料の読み取りや複数の社会事象を関連させて思考する力に課題があると考えられる。これは、資料を丁寧に読み取ることや複数の資料を関連させて思考する経験が不足していることが大きな要因と考えられる。さらに、その資料が何を示しているのかを的確に把握できていない場合もあつたり、小さな部分を見過ぎるあまりグラフの変化を大きな傾向としてとらえることができていないことも一因として考えられる。授業のなかで、さまざまな資料を、それが示す内容を理解させてから読み取らせ、読み取った内容をもとに自分の考えを表現する場を設定したい。

この単元のなかで、資料の読み取りなどをもとにして考察し、表現する学習を取り入れることで、それらの力を育成していきたい。

単元の指導

社会問題にもなっている「過労死」を扱う新聞記事を提示し、何故こんなことが起きるのか考えさせる。さらに資料の読み取りを通して現代の日本の労働者が抱える諸課題について理解させたい。そこから、それらの諸課題をどう解決していくのかという課題を設定したい。そのために、資本主義経済や株式会社のしくみを理解させ、そのなかでの企業の役割や責任についてや、労働の意義や労働者の権利がどの課題と結びつくのか、ワークシートを活用して関連付けさせたい。それら労働者をめぐる諸課題を解決し、よりよい働き方を創造していくために必要なことは何かを、国や企業、労働者それぞれの立場から考えさせ、さらに班討議

の後に説明させることで、将来の社会生活につながる知識や考え方、表現の仕方等を身につけさせたい。

単元の目標

- 現代の日本の労働者をめぐる「働き方」についての諸課題を自分の将来のこととして関心を持ち、その改善策について意欲的に考えることができる。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- 企業としての責任や労働者がかかえる諸課題に対する改善策を、企業・労働者それぞれの立場から、労働の意義や労働者の権利等の視点をふまえながら多面的・多角的に考察し、わかりやすく説明することができる。

【社会的な思考・判断・表現】

- 長時間労働や非正規雇用の増加、外国人労働者の増加など、今日的な労働者をめぐる課題を様々な資料から読み取り、何が問題なのかをあきらかにするなどわかりやすくまとめることができる。

【資料活用の技能】

- 資本主義の特徴やその代表的な生産形態である株式会社のしくみ、さらに弱い立場にある労働者に認められている権利等について理解し、それらの知識を身につけることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ① 労働者がおかれている環境や課題に対する関心が高まっている。 ② 労働者が抱える諸課題の改善策について意欲的に追求している。 ③ 将来の働き方について関心を持ち、望ましいワークライフバランスを意欲的に追求している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 企業の社会的責任について、企業や労働者、また消費者の立場から、多面的・多角的に考え、適切に表現している。 ② 労働の意義について考える。 ③ 現代の労働者をめぐる諸課題を解決するためにどうすればよいのか、企業や労働者の立場から多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ④ 10年後のワークライフバランスについて考え、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 労働者をめぐる諸課題について様々な資料からの確に読み取り、その内容についてまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 資本主義経済の大きな特徴や、株式会社の仕組みを理解し、その知識を身につけている。 ② 労働者の権利を守り、労働条件を改善するために労働組合や様々な法律があることを理解し、その知識を身につけている。

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

<p>本校が身につけさせたい7つの力</p>	〈先を見通す力〉 ○ 将来の自分にとってよりよい働き方を追究している。
	〈知識〉 ○ 資本主義経済の特徴や労働者の権利等について理解する。
	〈振り返る力〉
	〈先を見通す力〉 ○ 将来の自分にとってよりよい働き方を追究している
	〈チャレンジ精神〉
	〈粘り強さ〉
〈他者理解〉 ○ 相手にわかりやすく説明したり、相手の説明を理解しようとして聞いたりする。	

指導と評価の計画

(全6時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					資質・能力の評価 (評価方法)
		関	考	技	知	評価規準 (評価方法)	
1	課題の設定 情報の収集1 ○ 現代の企業や労働者を取りまく環境について関心を持ち、そのなかから課題を確認する。 ・ 労働者の雇用や働き方をめぐる課題を資料から読み取り、それらがなぜ問題なのかを考える。 (1時間)	◎		○		ア① (観察) ウ① (ワークシート)	知識 (テスト)
2	情報の収集2 ○ 資本主義経済の大まかな特徴を理解し、その知識を身につける。 ・ 日本の企業の多くは利潤追求を目的とした私企業であることや中小企業が多いなどの特徴を理解することができる。 ・ これらの特徴と労働者をめぐる課題との関連性について考える。 (1時間)		○		◎	エ① (テスト) イ③ (ワークシート)	知識 (テスト)

3	<p>情報の収集2</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 株式会社のしくみを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の運営のしくみを理解する。 ○ 労働者を雇用し、商品を消費者に提供する企業の責任とは何かを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用した労働者に対する責任や消費者に対する責任など、多面的・多角的に考えさせる。 <p>(1時間)</p>				◎	エ① (テスト) イ① (観察・発表)	知識 (テスト)	
4	<p>情報の収集3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 労働の意義を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 労働の意義を、昨年度の職場体験学習などから考えさせる。 ○ 労働者の権利とそれを守るための法律について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 労働三権と労働三法について知る。 <p>(1時間)</p>					◎	イ② (観察・ノート) エ② (観察・小テスト)	
5	<p>まとめ・創造・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 労働者をめぐる諸課題を解決するためにはどうすればよいのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業や労働者あるいは政府それぞれの立場から、どのような解決策があるのかを考える。 ・ 班で討議し、整理した解決策を説明する。 <p>【本時】</p>					◎	ア② (観察・ワークシート) イ③ (観察・発表)	他者理解 (観察・発表) 先を見通す力 (ワークシート)
6	<p>実行・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 政府の「働き方改革」について理解し、それと関連させながら将来の自分にとって、どのような働き方がのぞましいのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましいワークライフバランスについて前時で考えた解決策をふまえて考える。 <p>(1時間)</p>					◎	ア③ (ワークシート) イ④ (ワークシート)	高い志 (ワークシート) 先を見通す力③ (ワークシート)

本時の学習（5／6時間）

（1）本時の目標

将来働きやすい労働環境をつくるにはどうしたらよいか、労働者をめぐる課題の解決策をいくつかの立場から考え、説明することができる。

（2）本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て（◆）	評価規準 （評価方法）	資質・能力の評価 （評価方法）
1 前時を振り返り、本時の課題を把握する。（10分）			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 労働者にとっての課題には何があったか、確認する。 → ペアトークで隣の生徒と確認し合い、その後発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 長時間労働 → 「過労死」等 ・ 非正規雇用の増加 → 全体の約4割を占める ・ 労働力不足 → 外国人労働者の増加 約108万人（2015年） ○ 現代の日本の経済のしくみを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各企業が、利潤を追求する資本主義経済であること。 ○ 本時の課題を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 思い出せない場合は、ワークシートで確認させる。 ◇ 社会的現象だけでなく、なぜそれが問題なのかについても確認する。 ◇ 雇用者と労働者の対立が起こる要因は資本主義経済であることを確認する。 	<p>ア ② （観察・ワークシート）</p>	
労働者をめぐる課題についてどのような解決策があるのか考え、説明することができる。			
2 課題の解決策を考え、説明する。（30分）			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 労働者をめぐる課題を解決するためには、国（政府）や企業、そして労働者はそれぞれ何を改善していけば良いのか、原因を踏まえて考える。 個人の思考 → 班討議 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 雇用する側と雇用される側、さらに政府（国）それぞれの立場から考える。 ◇ 将来の自分の姿を想像させ、自分のこととして考えさせる。 ◆ 授業で書き込みしてきたワークシートを見ながら考える。 	<p>ア ③ （観察・ワークシート）</p>	<p>先を見通す力② （ワークシート） 他者理解④ （観察・発表）</p>
<p>【「おおむね満足できる」状況（B）と判断する根拠】</p> <p>○ 課題を一つあげ、その原因と解決策を、国（政府）・企業・労働者のうち二つ以上の立場から、説明できている。</p> <p>〈記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本では、将来的に労働力不足になるという課題があり、これは人口減少にともなう少子化等が原因と考えられる。解決策としては、企業が労働者の定年を延長したり、国（政府）が幼稚園などの施設を整備することなどが考えられる。 			

<p>【「十分満足できる」状況（A）と判断する根拠】</p> <p>○ 課題を二つあげ、その原因と解決策を、国（政府）・企業・労働者のうち二つ以上の立場から、説明できている。</p> <p>〈記述例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本では将来的に労働力不足になるという課題があり、これは人口減少にともなう少子化等が原因と考えられる。したがってこの解決策としては、企業が、労働者の定年延長や育児休暇を取りやすくしたり、国（政府）が幼稚園などの施設を整備するなど労働者が働きながら子育てできる環境作りを行なうことが考えられる。 労働者をめぐっては長時間労働という課題があり、これは仕事量が多いことや定時で帰れない雰囲気が会社にあることなどが原因と考えられる。したがってこの解決策としては、企業が、仕事を効率化して残業を減らしたり、労働者の意識改革、国（政府）が法律で残業が多くならないように規制したりすることが考えられる。 			
<p>【「努力を要する」状況（C）と判断する生徒への手立て】</p> <p>二つの立場（企業と労働者）から、そして課題も長時間労働や労働力不足への対策に限定して考えさせ、「残業」や「少子化」などのキーワードとなる語句を使用させる。</p>			
○ いくつかの班の発表	◇ 思考の根拠を明らかにして、相手に伝わるよう意識して発表する。		
<ul style="list-style-type: none"> 全体で、聞く人がわかるように説明する。 			
<p>3 まとめ・振り返りをする。（10分）</p>			
○ 本時のまとめをする。	◇ 本時の学習のねらいに対しての振り返りを記入させる。		
○ 振り返りカードに記入する。			
<p>（予想される生徒の振り返り）</p> <p>日本には、労働者にとっての課題があるが、その解決のためには、企業は定年を延長したり、労働者も残業を減らしてスキルアップを図るなど、いろんな立場からの取り組みができることがわかった。</p>			
○ 次時の確認			

(3) 板書計画

本時のめあて 労働者をめぐる課題についてどのような解決策があるのか考え、説明することができる。

【労働者をめぐる課題】

- ☆ 長時間労働 → 過労死など健康・生命への被害
- ☆ 非正規雇用者の増加 → 賃金などの格差
- ☆ 労働力不足 → 生産力の低下
- ☆ 子育てや介護と仕事の両立の難しさ
- ☆ 障害を持つ人々の自立

【対策】

生徒の意見

検 証

本授業の成果を検証するために、以下に示す評価問題を作成し、実施することとした。

- 右の資料を見て、以下の問題について答えなさい。
- (1) 資料から労働者をめぐる課題を読み取り、何が課題か説明しなさい。
 - (2) その課題を解決するために、どのような対策を取ることができるのか、企業や労働者の立場からそれぞれ原因と関連させて説明しなさい。

資料
少子化と人口減少を示す
グラフを示す